

様式第1号

令和 元年 11月 6日

真庭市議会  
議長 古南 源二 殿

真庭市議会議員 柴田 正志



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分  調査研究  研修会  要請・陳情活動

2 訪 問 先

- |              |   |
|--------------|---|
| ①オガール標準コース   | 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前2丁目3-12<br>オガールベース1F 会議室 |
| ②能代市学力向上の取組他 | 秋田県能代市上町1-3 能代市役所                       |

3 内 容

- ①補助金に頼らない公民連携で地域活性化を進める紫波町の取組「オガールプロジェクト」の研修
- ②学力状況調査等を軸にした能代市のPDCAサイクルの構築について調査研究

4 行 程 別紙のとおり 11/11~13

5 事務局から訪問先への依頼  必要  不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



真庭市議会 真和会 岩手県秋田県視察研修  
日程(予定)2019年11月11・12・13日

2019年

11月11日	月	7:40	真庭市役所	緒形さんの車
		9:50	伊丹空港	
		10:30	伊丹空港	JAL2183
		11:50	花巻空港	
		12:30	昼食	
		13:30		
			移動/自由時間	
		18:00	ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウイング	盛岡市盛岡駅前北通2-17 019-625-1211
11月12日	火	19:00	夕食	
		7:30	朝食/ホテル	
		8:30	出発/盛岡～紫波町	
		9:30	研修/オガール標準コース	紫波町紫波中央駅前2丁目3-12
		11:45	<オガールベース1階会議室>	090-2887-5222
		12:00	視察/昼食	オガール
		14:00		
			移動/自由時間	紫波町～盛岡～能代
18:00	ルートイン能代	能代市西大瀬17-1 0185-89-1003		
11月13日	水	19:00	夕食	
		7:30	朝食/ホテル	
		8:20	出発	
		9:00	研修/能代市教育への取組 PDCA	能代市
		11:15	旧料亭 金勇 視察研修	旧料亭 金勇/市が管理している建物 /国登録有形文化財
		13:30	視察/昼食	
			移動/自由時間	
		18:15	秋田空港	JAL2176
19:45	伊丹空港			
	伊丹空港			
	22:00	市役所	緒形さんの車	

.....視察研修参加者.....

<真和会>

入澤 廣成

長尾 修

柴田 正志

緒形 尚

谷本 彰良

様式第2号



# 報 告 書

令和 2年 1月21日

真庭市議会議長 古南 源二 殿

報告者 真和会 氏名 柴田 正志



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 令和 元年 11月11日 (午前・午後) 7時40分 至 令和 元年 11月13日 (午前・午後) 10時00分
2	場 所	①岩手県紫波町紫波中央駅前2丁目3-12 紫波町役場 ②秋田県能代市上町1-3 能代市役所
3	用 件	①オガールプロジェクト 視察研修 ②秋田県と能代市の学力向上の取組の研修
4	概 要	参加者 真和会 5名 (入澤廣成、緒形 尚、長尾 修、谷本彰良、柴田正志) ※詳細は別紙



真庭市議会 真和会 岩手県秋田県視察研修 日程 11月11・12・13日

令和1年11月11日	月	7:40	真庭市役所	緒形さんの車
		9:50	伊丹空港	
		10:30	伊丹空港	JAL2183
		11:50	花巻空港	
		12:30	昼食	
		13:30		
			移動/自由時間	
		18:00	ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウイング	盛岡市盛岡駅前北通2-17 019-625-1211
19:00	夕食			
令和1年11月12日	火	7:30	朝食/ホテル	
		8:30	出発/盛岡～紫波町	
		9:30	研修/オガール標準コース	紫波町紫波中央駅前2丁目3-12
		11:45	<オガールベース1階会議室	090-2887-5222
		12:00	視察/昼食	オガール
		14:00		
			紫波町～盛岡～能代	移動
		18:00	ルートイン能代	能代市西大瀬17-1 0185-89-1003
19:00	夕食			
令和1年11月13日	水	7:30	朝食/ホテル	
		8:20	出発	
		9:00	研修/能代市教育への取組	秋田県能代市上町1-3 能代市役所
		11:00	PDCA	
		11:15	旧料亭 金勇	旧料亭 金勇/市が管理している建 物/国登録有形文化財
		13:30	視察/昼食	
			移動/自由時間	
		18:15	秋田空港	JAL2176
19:45	伊丹空港			
	伊丹空港			
22:00	市役所	緒形さんの車		

<真和会>

入澤 廣成  
長尾 修  
柴田 正志

緒形 尚  
谷本 彰良

11月12日(火)9:30~11:45 岩手県 紫波町役場  
<研修内容> オガールプロジェクト(オガール標準コース)  
<講師>八重島雄光(オガール紫波株式会社 取締役)

## 紫波中央駅前都市整備事業=オガールプロジェクト

---

オガール紫波株式会社(H21年6月1日設立)

出資者・・・紫波町 100%

目的・・・○官と民が連携するためのエージェントの役割を担う

○社業を通じて町の一層の発展と町民の幸せを目指すこと

※パブリックマインドを持った民間会社

事業内容・・・オガールプロジェクトの推進、不動産開発、企画管理運営、産直「紫波マルシェ」運営、オガールインレストラン運営

<取組>

---

新駅の周りに 10.7 ヘクタールの塩漬けの市の所有地

H19 公民連携によるまちづくりがはじまる

(管理型浄化槽事業、火葬場等の PFI 事業の実績があった。また公民連携の推進に関する東洋大学大学院と紫波町との協定書締結)

H21 公民連携基本計画策定

公民連携のエージェントである「オガール紫波株式会社」設立

オガールデザイン会議設置(有識者/メンバーはオガール紫波株式会社の推薦に基づき町長が委嘱)→施設設計やデザインの調整を図る

H23 岩手県フットボールセンターオープン

事業主体:岩手県サッカー協会

町は土地を賃貸

オガールタウン日詰二十一区の宅地開発

(57区:分譲区画全体に条件をつける・・・①建築条件付土地売買②紫波型

エコハウス基準を満たす住宅③オガールタウン景観協定の制定 ※町産木材利用80%以上・町内14社を指定事業者とする)

#### H24 オガールプラザ(官民複合施設)オープン

事業主体:オガールプラザ(株)

事業手法:PPP手法(RFQ、RFP方式)

事業費:公共部分8億1千万円

特徴:区分所有による官民複合施設、テナントを先付けする逆算方式

公共施設:図書館・地域交流センター・子育て支援センター

民間施設:産直・歯科クリニック・眼科クリニック・カフェ・居酒屋・学習塾・事務所

オガールタウン 日詰二十一区 宅地分譲開始

#### H26 民設民営 エネルギーステーション 完成

事業主体:紫波グリーンエネルギー(株)

特徴:①地域熱供給(暖房・冷房・給湯)

②木質チップ焚温水ボイラー(500kW)

#### H26 オガールベース(民間複合施設)オープン

事業主体:株式会社オガール

特徴:①ビジネスホテル(オガールイン)

②日本初のバレーボール専用体育館(オガールアリーナ)

③入居テナント(コンビニ・薬局・じゃじゃ麺・文具店・居酒屋・事務所)

④紫波スポーツアカデミーの拠点(バレーボール・サッカー)

※岡山 就実の向井さんが指導者となっている

#### H27 紫波町役場新庁舎 完成

事業主体:紫波シティホール(株)

事業手法:PFI(BTO方式)

事業費:33.8億(契約額)

管理運営:平成42年まで 1億2200万円

#### H28 オガールセンター(官民複合施設) オープン

事業主体:オガールセンター(株)

事業手法:定期借地契約、代理人方式

特徴:①紫波町こどもセンター

②小児科と病児保育室

③アウトドアショップ2店舗(クライミングウォール設置)

オガールテラス(グランピング)

ベーカリー、トレーニングジム、キッズ英会話教室、美容院、事務所

## H29 オガール保育園(民説民営) 開園

事業主体:社会法人 共助会 (東京 八王子市)

事業手法:事業用定期借地

### 以上 オガールプロジェクトの系譜

---

#### <H30年度 オガールプロジェクトの実績 効果>

- ・H30 6月現在 オガールエリア 従業員数257名(役場職員を除く)の雇用創出
- ・紫波中央駅の1日の乗降者数 2896人
- ・周辺地域への民間投資誘発(構想段階から市民参加)
- ・地元企業共同体による施工
- ・資金の地産地消
- ・産直「紫波マルシェ」…売上5億3717万円、生産者320名加入
- ・行ってみたい、住んでみたい町となり不動産価値の向上

#### <感想>

公民が連携して新しい町を作られた紫波町の取組。新しい町をデザインし、公と連携する新たな民間会社が次々生まれたことは驚きでした。それができた要因のひとつが知識とビジョンと人脈を持った岡崎正信氏の存在であったと八重嶋氏より説明があり、改めて人の大切さを思い、また官が民にゆだねる勇気を思いました。

421戸の新しい町ができていました。周辺地域からの移住もあり都市集約の取組と思いました。

オガールプラザ(株)が事業主体のオガールプラザにある図書館は飲食ができてBGM が流れている特徴のある図書館です。図書館はいくら人が来ても利益をだすことはできませんが図書館と交流館からなる紫波町情報交流館には年間約 40 万人の来館者があります。来館者を見込んだ民間施設がオガールプラザに入居し経済活動が行われています。図書館を通じて集客を増やし民間の経済活動を促すという連携が素晴らしく思いました。

株式会社オガールが事業主体のオガールベースには日本初のバレーボール専用体育館(オガールアリーナ)があります。(床が普通の体育館と違っていました)全国から利用者が訪れ、オガールインホテルを利用した合宿が行われます。公の体育館は多目的なものとなりますが、民が目的を決めた体育館を作ることによりホテルと連携させて経済活動につなげていることが素晴らしいと思います。

PPP(Public Private Partnershp)・・・公共サービスの提供や地域経済の再生など何らかの政策目的を持つ事業が実施されるにあたって、官と民が目的決定、施設建設、所有、事業運営、資金調達など何らかの役割を分担して行うこと。その際、①リスクとリターンの設計 ②契約によるガバナンス、この2つの原則が用いられていること。簡単にいうと公有地を使った経済開発。

従来の施設管理ではキャッシュフローだけみると普通なら出っ放しだが、H30年度紫波町には1333万円の賃貸料、また他に約3000万円が入っているということです。以上、PPPについて少しですが学ぶことができました。

公民連携の手法として真庭市では指定管理という手法で積極的に取組まれています。紫波町ではPPP手法などが取り入れられ、民が施設を維持するお金をいかに稼ぐか、利益を出していく為の積極的な経済活動が行われているように思われました。

オガールプロジェクトの学びを真庭市での地域づくりを考える中で参考にしていきたいと思います。

---

11月13日(水)9:00～11:00 能代市役所 新庁舎 会議室7

<研修内容> 秋田県と能代市の学力向上の取組

## 「つながり」を視点として

<講師> 秋田県能代市教育委員会

.....

### 第1部

#### 1 秋田県の状況・特徴

- (1) 諸調査の結果・・・A問題(基礎)よりB問題(活用)の方がよい  
(秋田県教委・・・B問題を伸ばすのは授業改善)  
教科の結果に一喜一憂しない
- (2) 有識者の分析・・・良好な状況の要因は質問紙調査結果にあらわれる  
考え方、生活習慣などの当たり前度が高い

#### 2 秋田県の学力向上に係る取組(施策)



- (1) ふるさと教育……平成5年度から実施  
(地域に根差したキャリア教育と問をはつする子供の育成)
- (2) 組織的な取組「県全体のつながり」  
県教委と市町村教委との連携システム  
県と市町村の指導主事が同じ視点で指導  
小・中学校における教育専門監の活用
- (3) 学習状況調査を軸とした PDCA
- (4) 少人数学習推進事業  
基本教科で20人程度の少人数指導ができるように人的配置
- 3 授業づくり(秋田の探求型授業)  
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- 4 秋田の家庭学習(自主学習ノート)  
学校・家庭が連携して学習を支援

## 第2部

- 1 県の取組+α……県教委の学校訪問と一体化した学校訪問 PDCA
- 2 能代市としての+α…①市独自の教員研修  
②キャリア教育の視点を重視したふるさと教育の推進  
・コミュニティースクール導入  
③安心・安全な学校  
④幼保小連携、特別支援学校との連携  
⑤市単独の支援員
- 3 今後の課題と展望  
①教員の大量退職時代における指導力の維持  
②教員の多忙解消  
③加速する少子化への対応  
④ICT の整備

### <感想>

全国学力・学習状況調査においては全国トップレベルを維持する秋田県。その中でも1割点が良いといわれる能代市の取組を学びました。

特徴として教科の学力調査では A 問題(基礎)より B 問題(応用)の方が全国平均を上回るポイント数が高い傾向があります。(B 問題を伸ばすのは授業改善が必要ということです。)

そして県民、マスコミ等が教科の学力テストの結果に一喜一憂しない風潮が定着し、それよりも児童生徒質問紙等の実態に注目しているということです。

平成 30 年の質問紙調査結果で特質すべきは小・中学校ともに「家で、自分で計画を

立てて勉強をしている」の質問で全国比 20 ポイント程度高いこと。「家で学校の授業の予習・復習をしている」が約 30 ポイント程度高いことでした。家庭での学習を自主的に行う習慣があることがわかり、学力が高い重要な要因のひとつと考えられます。

そして「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」では 15 ポイント程度、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」では 18 ポイント程度全国平均より高く、このことは、ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくりを目指し平成 5 年から取り組まれている「ふるさと教育」の成果の表れと推察しました。

その他の特徴では不登校の出現率と暴力行為の発生状況が全国で一番少ないことです。また学習塾に通っている生徒が極端にすくないことが特徴でした。

秋田県の学力向上の大きな取組では「県教育委員会と市町村教育委員会との連携システム」があり、それにより学校間のつながりが強く、県全体が一つのコミュニティとなっています。

また「学習状況調査を軸とした PDCA サイクル」があり、能代市ではそれを基に $+\alpha$ の PDCA を確立しています。そして「小・中学校における教育専門監の活用」があります。それは教育専門監活用施策とは、教科指導に卓越した力を有する教諭の資質能力を複数の学校に活用し学校の教育力を高めることを目的に平成 18 年から推進。スーパーティチャーと呼ばれ、市町村教育委員会から推薦し県教育委員会で認定審査を行ったあと認定されます。本務校・兼務校の成果が大きい地区の教科の中核的な役割をもち、研修会の講師もつとめています。学びあう教師集団として教員全体の指導力の維持・向上、教科のネットワークの強化に努めています。

研修の中で印象に残った秋田県の取組、考え方がありました。

一つ目は授業の進め方です。授業内容を日常生活と結びつけ、この学びはこういった課題解決につながるのだということを授業のはじまりに共有するという事です。これにより良い授業のイメージが出来ているということです。

二つ目は家庭学習では宿題以外に「自主学習ノート」を使った学習があります。これには家族のコメントが書かれます。登校したら提出し、担任又は学年部の教員がその日のうちに点検してコメントを記入し帰りに子どもに返却するものです。秋田では 50 年以上前から学校・家庭が連携して自主学習ノートにより学習習慣を育む取組ができていたということです。

そして三つ目は先に説明しましたが学力テストの結果よりも児童生徒質問紙等でわ

かる実態(考え方や行動、生活習慣)に着目し、人としての当たり前度の高さを大切にしていることです。そのことが学力向上と、不登校、暴力行為が全国で一番少ないことにもつながっているのだと思います。

以上の3つ、教育、学力向上に向けての素晴らしい取組だと思いました。

学校と家庭がつながり、地域の教育に対する意識が高いこと、それにより児童生徒は正しい考え方と生活習慣、学習習慣が育まれていること。当たり前度の高さが秋田県の学力テストに反映されているのだと思います。

---

以上、真和会  
「オガールプロジェクト」と「秋田県と能代市の学力向上の取組」  
視察研修の報告レポート